

海外自治体幹部交流協力セミナー2019（ニューヨーク事務所管内） 事業概要

地方交流事業テーマ：① 芸術・文化が花咲いた歴史的風土を活かした、芸術によるまちづくり
② 東日本大震災からのまちづくりの取り組み

海外参加者数： 7名

Shraddha Kharel-Pandey（シュラダ カレルパンディ）
国際市・カウンティ支配人協会 (ICMA) アジアプログラム代表
Dean Sauriol（ディーソウリアル）
オンタリオ州自治体実務者協議会 (AMCTO) 会長
Geoff McKnight（ジェフ マックナイト）
カナダ自治体管理者協議会 (CAMA) / ブラッドフォードウェストグウィンバリー 首席行政官
Tahra Johnson（ターラ ジョンソン）
全米州議会議員連盟 (NCSL) プログラムディレクター
Brian Namey（ブライアン ネイミー）
全米カウンティ協議会 (NACo) 広報外務担当官
Matt Shafer（マット シェイファー）
州政府協議会 (CSG) 上級政策分析官
David Molloy（デイビッド モリー）
ミシガン州 ノバイ市 公安長官、警察長

日程：

月日	内容
11/4(月・祝)	○来日、オリエンテーション
11/5(火)	【東京セミナー】 ○講義：日本の地方自治（明治大学 木村俊介教授）、東日本大震災からの復興（復興庁） ○視察：明治神宮 ○クレア主催歓迎レセプション
11/6(水)	【東京セミナー】 ○視察：東京国立近代美術館、RICOH BUSINESS INNOVATION LOUNGE (RICOH BIL TOKYO) ○外務省職員との意見交換会 ○総務省総括審議官表敬、総務省職員による地方選挙の説明
11/7(木)	【移動/北茨城市における地方交流事業】 ○北茨城市長表敬、北茨城市行政説明、北茨城市主催歓迎レセプション ○視察：JX 金属株式会社、堤防視察
11/8(金)	【北茨城市における地方交流事業】 ○視察：新消防本部（燃油備蓄施設）、二ツ島高台公園、北茨城市民病院、平潟防災集団移転跡地・平潟災害復興住宅、大津漁港・大津漁協・非破壊放射能検査施設、（株）谷藤水産、漁業歴史資料館よう・そろー
11/9(土)	【北茨城市における地方交流事業】 ○視察：六角堂、五浦岬公園慰霊塔・ロケセット、茨城県天心記念五浦美術館、北町関本中線・国道6号勿来/関本・バイパス、

	生涯学習センター（とれふる）、期待場、ギャラリーARIGATEE ○文化体験：日本画 ○ホストファミリーとの対面、ホームステイ
11/10(日)	【北茨城市における地方交流事業】 ○視察：穂積家住宅、アクアマリンふくしま（佐糠地区の復興状況視察含む）、いわき・ら・ら・ミュウ
11/11(月)	【北茨城市における地方交流事業】 ○視察：野口雨情記念館、野口雨情生家、華川浄水場、浄蓮寺、ガラス工房シリカ、十石堀、蛭田二郎ギャラリー、グリーン工房 ○文化体験等：トンボ玉づくり、そば打ち体験
11/12(火)	【北茨城市における地方交流事業／移動】 ○北茨城市職員との意見交換会 ○クレア主催帰国前昼食会
11/13(水)	○帰国

【11月4日（月・祝）】

参加者来日

【11月5日（火）】

(1) 視察：明治神宮

セミナーの最初の視察として、明治神宮を散策し、日本の文化について説明。参加者は明治神宮の歴史的意義や神社でのエチケットに興味津々の様子だった。視察の最後には神前式を挙行している新郎新婦を見ることができた。



(明治神宮にて神社におけるお祈りの仕方の説明)

(2) 講義：復興庁

復興庁にて山田哲也参事官より2011年の東日本大震災から現在までの東北地方における復興状況や国の役割等について講義をいただいた。ビルや住宅への物理的な被害のほか、福島県をはじめ、風評被害を払拭するための政策についても説明していただいた。質疑応答で参加者が復興に向けた官民の連携や市民ボランティアの役割について質問したほか、アメリカの連邦緊急事態管理庁の役割や機能を日本と比較し、被災地に対するメンタルケアについても積極的に議論した。



(山田参事官による講義の様子)

(3) 講義：日本の地方自治

クレア本部会議室にて、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 木村俊介教授による講義を受講。質疑応答では、日本で起こったいわゆる「平成の合併」による都道府県内における自治体数の減少や、日本の野党の特徴、少子高齢化社会の深刻さに歯止めをかけるための国及び自治体の取り組みについて質問が相次いだ。



(木村先生に質問する参加者)

(4) クレア主催歓迎レセプション

グランドアーク半蔵門にて開催。参加者7名のほか、クレアから事務局長をはじめ8名が参加。

【 11月6日（水） 】

(1) 視察：東京国立近代美術館、株式会社リコー

午前中、日本画に関する基礎知識を得るために、東京国立近代美術館へ。明治から現代までの13,000点以上の作品を所蔵しており、オーディオガイドによる説明を聞きながら、参加者が自由見学を行った。

午後にRICOH BIL TOKYOを訪問し、スカイプ等での会議の効率性を高めるためのメモや資料共有ソフトのほか、芸術作品を輪郭まで3Dプリンターで再現することで、描かれた当時のままの色彩や画質に触れることができる機器について説明をいただいた。また、2020年の東京五輪のために作られたスタジアムに設置される防災装置や、同大会会場における災害時の誘導機能を備えている携帯電話アプリについても説明があり、各国の防災や災害時の対応方法等について意見を交わした。



(リコーの技術で芸術との新たな触れ方を)

(2) 外務省職員との意見交換会

外務省地方連携推進室職員より、地方連携推進室及び在外公館における取組について説明があり、その後意見交換を行った。

北米地域において、在外公館と連携することで実現可能な事業についての情報交換や、姉妹都市交流に関わる第三者のフレンドシップ組織を支援する有用性について意見が交わされるとともに、2020年の東京五輪の取り組みとしてホストタウン事業の事例や、ロサンゼルスで行われた米国のオリンピック・パラリンピックチームの復興「ありがとう」ホストタウンPRイベントが紹介され、日本の省庁と北米自治体幹部等による貴重な交流機会となった。



(外務省職員との意見交換)

(3) 総務省表敬、総務省職員による地方選挙の説明

総務省総括審議官を表敬訪問した後、会議室に移動し総務省職員による地方選挙に関する説明を実施。

表敬では総括審議官より、各国が有する慣習や法制度の認識の下、住民のニーズと向き合い、行政の役割について検討する義務等といった共通の課題について述べられた。

表敬訪問後、総務省の職員より日本の地方選挙制度や投票率、米国の地方選挙制度との相違点について説明があった。



(総務省総括審議官との集合写真)

【11月7日（木）】

（1）北茨城市長表敬

北茨城市役所へ到着後、正面玄関の入り口に掲げられた「歓迎 ようこそ！北茨城へ」という横断幕とともに市幹部職員に暖かく歓迎された。

到着直後、市役所内会議室へ案内され北茨城市長をはじめ、市の幹部職員を表敬した。市長の冒頭挨拶では北茨城市の「炭鉱の町」としての歴史や歴代市長、2011年に発生した東日本大震災からの早急な復興（同市は被災地の中で早期に復興が達成できたとされる自治体のひとつ）について語られた。また、訪問団長の挨拶に続き各参加者が自己紹介をし、記念品交換を行った。



（北茨城市長等との集合写真）

（2）北茨城市職員による行政説明

市長表敬に引き続き、市の幹部職員による行政説明を実施。明治時代から炭鉱の町として発展してきた同市は、常磐炭鉱が昭和46年に閉山となり、産業が衰退したため、深刻な人口減少となった。

その後、企業誘致や地場産業や観光産業の育成などにより人口増となったが、少子高齢化の進行により、人口最盛期であった約63,000人から約42,000人に推移した（令和元年8月1日現在）。

その他、市の予算や主な産業分野、東日本大震災の被害及びその復興、芸術によるまちづくりの取組等について紹介をいただいた。



（北茨城市職員による行政説明）

（3）北茨城市主催歓迎レセプション

五浦観光ホテルにて、北茨城市主催の歓迎レセプションが行われ、新鮮な魚介類や茨城県産の食材を使った料理で歓迎を受けた。

レセプションでは、5年ごとに開催される国指定重要無形民俗文化財の「御船祭」にて活躍する御船祭保存会のお囃子や2019年5月に行われた祭りの動画を鑑賞した。暖かい歓迎を受け、五感を通じて北茨城市のことを知り、地域の伝統文化についても学ぶ機会となった。



（歓迎レセプションにてお囃子の様子）

【11月8日（金）】

（1）視察：新消防本部、二ツ島高台公園、市民病院

午前、北茨城市の東日本大震災後に移転・建設された施設を視察した。まず、2011年の地震により被災し高台に移転された消防本部や市民病院へ向かい、市民病院の建設時に導入した耐震対策や、消防本部の災害展示スペースや消防士の訓練施設も見学した。

津波の際に、津波被害が想定できる地域に住んでいる方々が速やかに避難できるように高台に建設された二ツ島高台公園も視察した。公園は様々な用途として利用されることが想定されており、コミュニティのイベントスペースや災害避難者用の備品も格納されている。



（市民病院の基盤の耐震対策を見学）

（2）視察：大津漁港、非破壊的放射能検査施設

午後に、北茨城市の漁業施設を回り、2011年に甚大な被害を受けた大津漁港を訪問。早急に再建したにもかかわらず、福島第一原子力発電所の事故による風評被害にも直面している。その被害を払拭するための取り組みを理解するために、大津漁港で扱っている魚を検査する施設で、東北大学の協力で建てられた非破壊的放射能検査施設を視察した。

参加者は漁港の水揚げ量や漁船の規制、放射能検査の種類や第二確認検査手続き等について積極的に質問した後、大津漁港でその日に行われた競りも見学し、北茨城市の漁業に関する包括的な視察となった。



（魚の検査方法について聞く参加者）

【11月9日（土）】

（1）視察：六角堂、茨城県天心記念美術館

北茨城市の日本芸術史とゆかりのある五浦を視察。

まず、日本画で有名な岡倉天心の人生や功績について学ぶために、1905年に建設された六角堂へ行った。天心は六角堂で太平洋の波の音を聞きながら、思索にふけったと言われており、1955年に同建築物の保管が茨城大学に移管され、一般公開された。しかし、2011年に東日本大震災の津波により六角堂は土台を除き流されてしまったため、茨城大学は再建に取り組み、わずか1年間で再建された。

六角堂の視察後、茨城県立天心記念五浦美術館へ向かい、天心の芸術作品や「茶の本」等といった著書のほか、日本画の展示に触れるとともに、鳥獣戯画の絵付け体験を通して日本の美術について学んだ。



（天心が六角堂から眺めた海原を鑑賞）



（天心記念美術館にて日本画体験）

(2) 視察：生涯学習センター（とれふる）、期待場、ギャラリーARIGATEE

日本画や岡倉天心に関する視察に引き続き、市が掲げる「芸術によるまちづくり」における、北茨城市の住民や地元芸術家を支援する取り組みを、市所有の施設にて見学した。

生涯学習センター（とれふる）及び期待場は閉校となった小学校で、生涯学習センターは市民の学習のみならず、健康増進のためのトレーニング室等として機能している。また、期待場は石井竜也氏や他の地元の芸術家が作品を制作したり展示したりするためのスペースである。

期待場及びギャラリーARIGATEEにおいて、北茨城市在住の地域おこし協力隊の方とも交流した。

期待場では、北茨城市で開催される「桃源郷芸術祭」というアートイベントを担当されている都築響子さんの勧めにより、参加者は彼女が様々な有名なビルやテーマに基づいて制作した帽子を被った。

ギャラリーARIGATEEでは、石渡のりおさん及び妻のちふみさんによって改修された築150年の古民家を案内していただいた。現在、ARIGATEEはアトリエ兼ギャラリーとなっており、期待場とともに2019年の桃源郷芸術祭の会場にもなっている。

本視察では、参加者が北茨城市の芸術によるまちづくりの取り組みを理解し、地元の芸術家への支援やその方々による地域活性化活動について学ぶ、貴重な機会となった。



(期待場で都築さんとの集合写真)



(ギャラリーARIGATEEでの施設説明)

(3) ホームステイ

一日の芸術に関する視察を終え、北茨城市役所へ戻りホストファミリーとの対面式を実施。一人一人ホストファミリーと対面し、写真撮影後ホームステイへ向かった。



(ホストファミリーとの記念撮影)

【11月10日（日）】

(1) 視察：穂積家住宅

ホームステイの翌日には、北茨城市も含まれる「常磐3市」という観光協定を結んでいる同県高萩市及び福島県いわき市を観光。

午前中、1773年に建てられた穂積家住宅及びその周辺の庭園を見学。高萩市職員による施設の歴史に関する説明を聞きながら、施設の周りを散策した。

ツアーの後、茅葺屋根の茶屋で昼食をとった。



(穂積家住宅の屋根を見上げる参加者)

(2) 視察：アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウ

午後いわき市へ行き、アクアマリンふくしま及びいわき・ら・ら・ミュウという魚の市場を視察。

アクアマリンふくしまでは、2011年の震災当時の被害や津波による洪水被害のビデオを見てから、水族館のスタッフから水族館の展示について説明を受けた。質疑応答で、参加者は災害時において役に立つ発電機や施設等のハード面のみならず、被災死した魚の現状回復についても積極的に質問した。

いわき・ら・ら・ミュウでは、参加者が水揚げされた新鮮な魚等を見学した。



(アクアマリンふくしまでの講義の様子)

【11月11日（月）】

(1) 視察：野口雨情記念館・生家、浄蓮寺

北茨城市は日本画の歴史のみならず、童謡詩人である野口雨情のふるさととしても知られている。

野口雨情は日本の三大童謡詩人であり、代表作には「七つの子」や「赤い靴」がある。記念館では、雨情の人生について紹介があり、雨情の生家では、功績を普及する団体による温かい演奏にて歓迎された。ピアノの伴奏で2人の歌手が雨情の童謡を演奏してくださるとともに、雨情の孫にあたる方が生家の展示物を説明し、自ら参加者のために童謡を披露してくださいました。

その後、858年に建立された浄蓮寺へ向かい、お寺の近くにある花園川を歩きながら、参加者は道端に置かれた33本の磨崖仏を熱心に数えていた。



(野口雨情のご子孫（孫）を囲んで)



(磨崖仏を数える参加者)

(2) 視察：ガラス工房シリカ、蛭田二郎ギャラリー
午後にはギャラリーや宿泊施設で構成されているマウントあかねという公共施設へ移動。

まず、ガラス工房シリカにてトンポ玉づくり体験をした。参加者にもトンポ玉は作りやすく、ガラス作品の展示スペース及び作品等を鑑賞した。

蛭田二郎ギャラリーは、蛭田二郎という北茨城市出身の芸術家による彫刻作品が展示されているギャラリーである。北茨城市の市制施行60周年事業としてオープンし、市民等が彫刻作品を無料で愛でることができるため、訪問者が芸術と新しい形で触れることができる。



(作品を触ってもいい蛭田二郎ギャラリー)

(3) 文化体験：そば打ち体験

北茨城市での最後の夕食前に、参加者が専門家から指導を受けながら、初めてのそば作りを行った。水加減や、切る際に麺の細さに気を付けながら、大量のそば麺を準備した。その後、自分たちが作ったそばが夕食として調理され、誰が一番美味しいそばを作ったかを楽しく議論した。



(指導を受けながらそばを切る参加者)

【11月12日(火)】

(1) 意見交換会

北茨城市の波の音に包まれながら、最終日を迎えた。セミナーの締めくくりとして帰国前意見交換会をとしまや月浜の湯で開催し、参加者が順番に北茨城市に関する感想を述べた。参加者の多くが北茨城市の歴史や文化に敬意を払っていることや、大震災後の迅速な復興に対して感銘を受けた。また、参加者からは少子化問題や市の女性幹部職員の比率を改善するためにアメリカやカナダで導入されたフレックスタイムや他の政策の紹介があった。

参加者の助言に対し、市長が日本はまさに歴史の変わり目にあると述べ、これから改善に向け全力を尽くしたいと誓った。



(意見交換会の終了後の集合写真)

(2) クレア主催帰国前昼食会

意見交換会に引き続き、北茨城市幹部職員と帰国前昼食会へ。

北茨城市長をはじめ、意見交換会に参加された部課長等の幹部職員に出席していただき、参加者に対し、市長および幹部職員が雨情の唄を披露し、昼食会が開催された。

昼食会ではそれぞれのテーブルで意見交換会において語り尽くせなかった課題や北茨城市での滞在について振り返り、集合写真の撮影後、北茨城市を後にした。



(北茨城市を離れる前に全員で)

【 11月13日（水）】

参加者帰国